

H28.3.21 実施 地域部会準備会会議録

出席：町内の地域公共交通会議委員、自治協議会長、交通事業者、移送・送迎サービス事業者
進め方：参加者を5つのテーブルに分け、3つのテーマについて自由に発言してもらい、テーブルごとに話し合った内容を職員がまとめて発表した。

地域の足について、実態を語る・理想を語る

～地域の足をどうしていきたいのか？ 今やらなければならないことは？～

<各テーブルからの意見>

- ・まずは、朝夕の通学の確保を。
- ・路線沿いの人より、バス停まで遠い人（特に一人暮らしの高齢者等）への対応をこの先どうしていくか 免許返納者、自動車乗れない人への対応
- ・バスは大きな道しか走れない。普通自動車、軽自動車を使った細かな対応ができないか
- ・今の路線バスは駅中心だが、病院、スーパーなど生活に直結した場所を中心にしたらどうか。
- ・白川口の住民は三川（スーパー）、大利（病院）方面しか路線バスを利用しない。奥の方（黒川や佐見）へバスで行くことない。町内でも利用の仕方に地域差がある。
- ・困るのは、少人数家族の場合の高校生通学の送迎。国道までの移動ができない。
- ・車を貸してもらえる制度（白楽園）が佐見もあると良い。
- ・社協、デイサービスなどで昼間空いている車両の活用。事業者側から地域貢献したいという声もある。
- ・道路の状況（黒川悪い） 公共交通にからめて道路状況を良くするための支援を。
- ・通学通園でバスに乗る高校生、保育園児と運転手のふれあい。親子の会話があった。
- ・黒川や切井の祭りに公共交通があれば、他から来ることできる。観光面でもっと活用を。
- ・運転士の養成。女性や若い人の人材育成が必要。
- ・免許がないと自家用車で送迎ができないのか。新しいシステムでは七宗や金山への連絡はできるのか。
- ・すぐに「それは難しい」という言葉を使わず、みんなの考えを出し合う場がほしい。
- ・まず困るのは、高校生の通学の足、通院や買物の足がなくなること。
- ・朝はバスに乗る人がいるが昼は乗る人がいない。時間帯により利用状況がかなり違う。
- ・高齢者の現状は把握しているが、一般の人の状況把握はできてない。公的サービスを使うより頼める人に頼んでしまう高齢者が多いのでは。そのため困ったという声がなかなか聞こえてこない。
- ・ただただアンケートをとってもダメ。実際に困っている人を訪ねて話を聴き確認することが大事。各地区の民生委員と協力が必要。
- ・バス停は今のままでは遠い。重い荷物を持ってバス停から自宅まで歩けない。
- ・自宅ドアの前までバスが来れば便利だが、全部に対応したらそれも大変なことになる。
- ・今の路線より細かく回れるような仕組みが必要。
- ・バラバラに帰ってくる高校生の全員を対応も困難。切る部分と残す部分の仕分け必要。
- ・エリア毎の状況が違う。エリア毎の対応を。

- ・ボランティアする側もだんだん高齢化していく。

<加藤先生から>

- ・自分で乗れない人は2種類ある（高校生と高齢者）が、それぞれのニーズが違う。
- ・駅でなくスーパー病院へ行きたい人、町外へ行きたい人。それぞれに対応すると分散する。利用密度が減るという問題。
- ・朝の高校生には大きな車両必要だが、それ以外の時間帯は小さい車両が良い。
- ・個人の車両を使う方法もあるが、基本は緑ナンバー（道路運送法、有償、二種免許）
- ・バスやタクシーを供給できない地域で認められるのが白ナンバー。七宗町営バスなどがそう。地域で輪番という方法もある。どうやって運転士集めてくるか。
- ・デマンド運行だと気が引けるという高齢者が多い。（呼べば呼ぶほど公費がかかる）
- ・加子母の例 路線バスは国道（停留所は2km） 村内はNPOが巡回バス（週3回1日3便）
- ・地域によって方法が違うのは問題ない。自由に考えるきっかけが必要。
- ・みんなの意見は私にとっても参考になる。

人口減少と高齢化の町で、20年後の暮らしを交通を考える。

～公共交通（お出かけ）と何かを組み合わせ、まちの将来像を描いてみましょう～

<各テーブルからの意見>

- ・大山白山神社、ピアチェーレなど回るバスを 観光を
- ・町内にある店舗がなくなる。店舗に替わるものと今の店舗を守ることにについて考える必要あり。
- ・5年後でも担い手が半分ぐらいになるかも。今は拠点が駅だが、病院やスーパーを拠点にしては。
- ・病院バスで、ついでに買物や銀行を利用できるなど、1つの移動ですませられるように。
- ・病院バス、スクールバス 昼間の活用を考える。
- ・人口減少のなか、各地区にいろいろな施設があるのはたいへん。役場、銀行、郵便局などを拠点に集中させては。
- ・公共交通以前の問題として、この先無人となる地域ができる。まずは産業をどうするか、人をどうやって増やすかが重要。田舎で暮らすための基盤作りをどう考えていくか。
- ・高校進学にあわせて世帯で転出して戻ってこない。理由は田舎は地域の役が多いから。戻ってもらえないと後継者がいなくなり無人になる。そこをどうするか。
- ・20年後よりこの4月だろと言いたい。女性タクシードライバーは作れるのでは。名古屋市では障害者は割引でタクシーに乗れるらしい。白川タクシーは障害者乗車で自主的に割り引きしている（行政負担なし）ことを聴き驚いた。
- ・公共交通は祭りやイベントなどでの利用と、普段の生活での利用の2つに分かれるが、両方あるとよい。
- ・谷が深く広い地形、町内をタクシー移動すると料金が高額。狭い範囲での移動と別地区への移動と、手段を分けては。
- ・2種免許を持つ住民の情報を集約して活用しては。
- ・物流が発達し何でも宅配で手に入るが、高齢者は自分で見て買いたい。お出かけできる環境が必要。移動販売車が必要だが、みんなで買って協力しないと維持できない。

- ・地域にお助けグループができるとうい。高齢者だけでなくシングルマザーの手助けもできる。
- ・人口減少が進むと物流量も減り、宅配営業所も撤退するかも。人と物を一緒に運ぶようなことも出てくるかも。

<加藤先生から>

- ・貨客混載は路線バスは今でも法的に可能、ただしバス停までしか運べないのが問題。全国的な見直しで仕組み作りが進んでいる。
- ・バス停で地域ボランティアが受け取って配送するなど考えられている。
- ・いろんなものを一度に運べる仕組みは今後必要
- ・ATMの維持が大変で集約されつつある。どういう施設がそこにあるので、そこに行けない人をどうやって運んでいくかというように考えていかないといけない。
- ・外国人観光客をどうやって連れてくるか。そのために新しいものを作るのではなく、今の路線バスで仕組みを少し変えて対応することも考える。馬籠などすごい状態。外国人観光客については、これからいろいろ考えてみるといい。
- ・東京より田舎がいいという東京人もいる。白川にどうやって連れてくるかプロモーションを考えることも大切。都会になくてここにあるもの、都会にあってここにはないもの、でも無くてもどうすれば住み続けられるか、そこを突き詰めて考える。運転で支える。ものを運ぶことで支える人がどれだけ来てくれるか考えて行くこと大事。

地域部会の骨組みを考える。どういうメンバーが必要か？

～地域に合った公共交通システムを作るには、何から始めればよいのか？～

<白川地区>

- ・白川地区ひとつで考えると、条件が違いすぎるので協議会単位くらいがよいのでは。
- ・自宅まで来る公共交通の仕組みを誰が利用するか把握するには、自治会長、老人クラブ、民生委員、福祉委員などが委員になるとよい。
- ・何から始めれば・・・どこに何があれば使いやすいか調べるところから始めてはどうか。

<白北地区>

- ・何よりも熱心にやってもらえる方、ある程度仕組みが出来上がるまでは何年も続けてやってもらえる人が必要。
- ・地域のことをよく知っている民生委員、医療者、交通事業者、社協、サンシャイン等福祉関係者
- ・自分たちの地域は自分達で守っていくという気概のある者がいることが重要

<蘇原地区>

- ・協議会長は地域の代表だが、実状は詳しくない。高校生のことは保護者が詳しい。高齢者のことは、本人から聞くのがいいが会議に出てくるのは難しいので、民生委員、高齢者の状況をよく知る年輩の女性などが代弁者としてよいのでは。
- ・路線バスの影響は、三川と切井赤河で違う。それぞれの地区から選出する必要あり。それぞれ自治協議会長が5人ずつ選出して計15人くらいが妥当では。
- ・高校生の通学の問題と高齢者の生活の足の問題は、最初から区分して別に考えてはどうか。高

校生は保護者で、高齢者は民生委員が中心で話しをしてはどうか。

<黒川地区>

- ・黒川の中で移動する場合と駅まで行く場合と分ける。遠くまではバス、近くはグループで運営するタクシーなど。ただしグループ運営は事故時の責任などの問題がある。
- ・高校進学を機に転出するケースあり。高校生が家から通える状態を維持することが重要。

<佐見地区>

- ・買物をする店の人、送迎車を持つ飲食店の人、あんきの会にも加わって欲しい。
- ・デイサービスせせらぎ園の車両（昼間空いている）を使った移送サービス
- ・福祉会（財源を持っている）
- ・地域部会と全体との兼ね合いを考えて、タクシー会社にも加わってもらっては。
- ・高校生はほとんど下宿だが、公共交通があれば通わせたい気持ちがある。
- ・まず実態把握、聞き取りができるような体制をつくる。
- ・大型免許、二種免許保有者などの把握も必要

<加藤先生から>

- ・白川町全体で公共交通がどういうサービスを提供していかなければいけないかというポリシーとそれぞれの地区ではプラスアルファで何ができるかを分けて考えるとよい。
- ・一番のターゲットになるのは、高齢者、高校生。それぞれ全然違う需要なので、それぞれどういう対応がいいかを考えていく。
- ・町全体で何ができるか、各地域で「うちはこういう対応ができる」という個別に何ができるかを考える体制づくり。その実現のための担い手をどうするか、えり好みはしてられない。基本は緑ナンバーだが、白ナンバーも含めて、更には専門なのか兼業なのかも含めて、ありとあらゆる可能性を考える必要がある。それを各地区で検討する体制作りを進めてもらえるとよい。
- ・地域公共交通会議では「うちはこういうことをできる」「うちはこういうサービスが必要だ」というのを持ち寄って「じゃあ、こんなふうにしたらどうだろう」という話ができる。会議には事業者もいるので事業者としてどこまで対応できるかもわかるし、事業者から求められることもわかる。これを繰り返すことで前に進んでいけるのではないか。来年度はそれが大事なのかなど。

<質疑応答>

Q：事業者（委員）は地域部会に来てくれるのか？

A（濃飛バス）：呼ばれば出席する。いろんな地域でやっているのだから、参考になることを話せるかもしれない。

A（白川タクシー）：同じく出席する。タクシーとして何ができるのか話していきたい。

Q：地域部会の体制はどうなる？

A：事業者が入った方がいい局面と住民で話し合った方がいい局面があるので使い分けるとよい。他地区では興味ありませんという事業者が多い。決めて案を持ってきたら見積出しますというビジネスライクな事業者もかなりある。両社とも検討段階から加わってくれるのは前向きな事業者だと。事業者は部会の委員というよりオブザーバーの立場がよい。

Q：どう発想したらいいかもわからない。

A：ニーズがどこにあるか整理してほしい。ニーズというのは、今はないけれど、こういうのがあ

ったらいよいよねというものも含めて出してもらいたい。例えば、免許のない高齢者は遠慮していると思う。本当はこうしたいのだけれど頼んだりするのは嫌だから我慢しているとか、考えること自体ダメだからと思っている人もいっぱいいると思う。それをいきなりニーズやそのやり方を出せというのもおかしいことなので、民生委員さんやケアマネさんとか話しながら（2、3時間かかると思う）、結局何がやりたいのを引き出すのが必要。

- ・高校生中学生ならそこまでしなくても、こんなことしたいと出てくる。高校生中学生向けの懇談会を私がやって自由な意見を引き出したいと思う。Wifi が使えるなど保護者の車に乗るよりバスの方がいい状況を作るとか。
- ・一方で運転手をできる人がどのくらいいるのかの調査。供給側も調査してほしい。

Q:加藤先生の夢は

A: 今回の夢としては、私の中では（これからもずっと）自宅から高校通学できること。高齢者が通院も買物もできること。最低これは達成したい。

- ・これまでも白川よりもっと田舎町や離島でも達成してきた。ここは離島でなく本土だから。でも今、岐阜県の中でももっとも難しい地域となってしまった。高校生が自宅通学でき、高齢者が安心して最後まで暮らしていけること、バスやタクシーが走る中で、都会の人や外国の人が遊びに来たらふらっと乗れる公共交通がある。そういう環境にすることが目標です。

<加藤先生から>

白ナンバーのメリット、デメリット

- ・地域でやれる人がいればやってもらおうとか、高校生も保護者が輪番で送迎するとかいう話も出ていたが、一方で事故があったときどうするのかの問題もある。
- ・白ナンバーでお客を運ぶ場合、免許は一種免許でいいが、講習会を受けて普通の運転手ではないような形にしないといけない。飛騨市では講習の費用を市が出すとかやっている。保障されているといっても事故が起きれば狭い地域なので後々いろいろな面での苦勞もある。そうするとプロドライバーに任せた方がいいということになる場合もある。どこまでをだれがやるかは事業者とも話しをしなければならない。
- ・そもそも濃飛バスが運転手を集められないことから始まったので、事業者でも集められない運転手を地域でどうやって連れてくるか、地域で運転手をすることにどれだけ魅力を感じさせられるかということも大事。地域の魅力をどれだけ高められるかということも狙いだと思っている。

国の支援

- ・国は、やりたいことを考えて提案すると、結構支援してくれる制度がある。私自身、国の制度作りをずっとやってきたので、何で使ってくれないの？という思いもあるので、みなさんからどんどん提案していただき国の制度に乗るものは活用してもらいたい。
- ・場合によっては新しい制度も作っていきたいと思っている。皆さんは自由に考えて提案してもらえれば、私もお金を持ってくる制度を考えられるし、それが全国のいろんなところで使える仕組みになると思う。いい仕組みを考えてもらいたい。